

平成25年度 上田市立清明小学校

自己評価シート(中間評価)

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)	
「清く明るく 豊かな心で 進んで学ぶ 子どもの育 成」 ・こころもからだもたくま しい子ども ・友だちにしんせつにで きる子ども ・しっかり学習できる子 ども	①自主:豊かなかわりや様々な体験を通して、自分で気づき、よく考えて自ら行動できる子ども ②豊かさ:お互いに認め合う中で自分に自信を持ち、友との関わり合いを大切に、共に学習や生活を楽しむことができる子ども ③学び:自ら見つけた課題、友と考えるつなぎからめ合いながら追究し、学びの楽しさや高まりを実感できる子ども		
	今年度の重点目標		
	1	豊かな体験活動を通して、自己を表現できる場がある学校生活づくり(自主)	
	2	友との関わり合いを深め、共に学ぶ楽しさを感じる集団づくり(豊かさ)	
3	「つかむ」「つなぐ」「伝える」中で豊かに自分の考えを表現できる子どもの育成(学び)		

総合評価					
○「授業がもっとよくなる3観点」の意識化に努め、日々の授業改善に取り組んできた。確かな課題把握、様々な学習形態を取り入れたためはりのある授業、見届けの時間での学習の定着化に努めた。今後は、授業の中で、小グループで課題を練り上げ、自分の言葉で発表させる機会を設定しながら、思考力や創造力の伸長に力を入れた。 ○ふるさと学習を推進し、友と共通のテーマに向けて関わり合いながら、追究する体験活動に力を入れた。地域のひと・もの・ことに心を寄せながら、自ら気づき、よく考えて活動する姿や、お互いを認め合い、尊重し合いながら取り組む姿が多く見られた。 ○全校朝マラソンや全校縦割り班による活動、児童会の主体的な活動を支援し、子どもたちの自主性の伸長に努めた。学年や男女の枠を越えた交流が生まれ、体力と継続力が高まりつつある。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
・ふるさと学習を大切にに取り組んできている。学び・深め・発信するという視点を大切に、継続して取り組んだ。		○			・地域の方から学ぶ場面を多く設定し、共生の意識を持つとともに自己有用感や自己肯定感が増すよう努力する。
・縦割り班の活動に成果があった。取組の継続性に力を入れたい。	○				・異年齢で互いに関わりあう活動をさらに重視し、協力して問題解決できる場面を作っていく。
・授業改善への意識を持って取り組んだ。自己課題解決の取り組みを継続したい。		○			・更なる授業改善を進めるとともに、言語活動を充実させ、思考力を高める場面を多く設定していく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校教育	学習指導	授業への意識作り	授業を受けるルールが身につき、良い姿勢で授業に臨んでいるか。
		学習課題の共有化	子どもの内から学習課題が設定され、全体に共有化されているか。
		共同で話し合う場面の設定	課題解決に向け、小グループなど共同で話し合う場面を設定しているか。
		振り返り活動の言語化	学習の振り返りに言語活動を取り入れ、次時につなげているか。
		地域の「ひと・もの・こと」による学び	地域の「ひと・もの・こと」とともに学習を深める授業展開をしているか。
		家庭学習の充実	学習の手引きを示し、家庭学習を充実させる取り組みを日常的に行っているか。
		キャリア教育の推進	全教育活動をキャリア教育の視点からとらえ直し、推進しようとしているか。
	生徒指導	挨拶の充実	いつでも挨拶・会釈ができるよう、指導目標を立てて取り組んでいるか。
		生活規範意識の育成	集団のきまりや約束を守り、規則正しい生活習慣を身につけさせているか。
		自主的・主体的な児童会活動	縦割り活動を朝の活動で月1回を目安に実施しているか。
和	人	「人を大切にする」活動の充実	日々の生活や授業の中で、自他の良さに気づき、共に学ぶ良さが感じられる、日常的な人権同和教育が行われているか。
学校運営	児童の学びの発信	地域に向けて授業を公開したり、HPや学校だより等で発信しているか。	
	PTAとの連携	豊かさや思いやりの心が全校に広がるよう、PTAと連携した活動を行っているか。	
	温かい言葉遣い	教職員は日々の児童との関わりや授業の中で、温かい言葉遣いで接しているか。	

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
・発言の習慣や話を聞く姿勢ができてきた。継続して取り組みたい。	○				・授業に臨むルールの共通意識を持てるよう、全校で成文化したり具体的な姿で表示したりして継続化を図る。
・学習課題の共有化を図る段階を意識して、授業に臨めるようになってきた。	○				・児童のつぶやきを丁寧に拾い、学習課題を成立させる力量を高める授業研究を重ねる。
・テーマを決め、解決のための追究場面を設け、話し合いを深めることができてきた。		○			・自分の考えを少人数グループで広めることから、考えを練り、深める活動の場面をより多く設定する。
・振り返りの場面では自分の言葉で表現することに重点を置き取り組めた。		○			・自他の考えをまとめ、自分の言葉で表現する場面をより多く設定する。
・学級による取り組みの差が見られた。さらに地域の特性を生かした活動に取り組みたい。		○			・ふるさと学習を学級の中核活動に据えていこう、さらに取り組みを進めるとともに、人との関わりを大切にしたい。
・概ね良いが、家庭学習の手引きの見直しを行う必要性も検討していきたい。		○			・「家庭学習の手引き」の見直しを図りながら、授業と連動した家庭学習となるようにしていく。
・各学年の計画表を作成し、見直しを進めている。意識を統一することに課題がある。		○			・キャリア教育に対する教職員の意識高揚を図り、全教育活動をキャリア教育の視点で捉える努力を継続する。
・指導目標を立て、児童会が主体となって取り組んだ。学校外の挨拶をさらに推進したい。	○				・習慣化に向けての取組の充実と、学校外での取り組みを児童会を中心に更に工夫したい。
月目標を決め、取り組んだ。挨拶・返事・靴揃えを大切に継続した取り組みを続けた。		○			きまりや約束を守ることの大切さについて、さらに指導するとともに、場に応じた対応ができるようにする。
・縦割り班活動の機会を月歴に位置づけ確保した。児童会活動は熱心に取り組んだ。	○				・縦割り班活動とともに、ペア読書や弁当の日の取組のような、兄弟姉妹学級での共通の活動に力を入れる。
・学級の人間関係づくりを最も大切にし、日常生活や調査等からその把握に努めた。個々の児童の思いを大切に、一人一人が大切にされるよりよい人間関係づくりを目指したい。	○				・QUの調査結果を分析し、人間関係等の把握に努めるとともに、日頃より児童との悩み相談を行うなど、より多くコミュニケーションを図る場面を持つよう努める。
・学校だよりの継続的な発行や回数に課題を残した。学校行事等をHPに月2回程度公開した。		○			・学校だよりの発行回数を増やすとともに、内容の充実を図る。学期ごとの写真を掲載していくとともに、学年学級の情報も流せるようにしたい。
・各学級学年での交流行事をはじめ、各部会等でも連携を図ってきている。		○			・学級学年や地域でも交流が盛んに行われるよう、連携を密にしながら取り組みたい。
・児童の心に寄せた指導心がけている。後指導も丁寧にしよう徹底していきたい。	○				・今後も児童の心に寄せた温かい言葉遣いによる指導心がけ、後指導なども丁寧に取り組みたい。

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった